

資料7 隋・高句麗戦争と倭国

隋（主に「隋書」による）	倭（主に「書紀」による）
<p>607 煬帝が北方辺境を巡幸。突厥の天幕にて高句麗使節に遭遇。倭国から使節（「日出処天子致書」）。百済が朝貢（高句麗征討を要請しつつ、高句麗と通じ隋の状況を窺う）。煬帝は予てより計画していた高句麗征討を決意。</p>	<p>607 第2回遣隋使（小野妹子、「日出処天子致書」）、学問僧受け入れを求める。</p>
<p>608 永濟渠（黄河～幽州）の開鑿命令。裴世清を百済経由で倭国に派遣し、朝貢（高句麗からの離反）を促す。裴世清が倭国から朝貢使（妹子）と学問僧等を伴い帰国、復命。</p>	<p>608 妹子が帰国、裴世清来朝。第3回遣隋使（妹子、「東天皇敬白」）、学問僧等を派遣。（路線変更）</p>
<p>609 青海・甘肅に親征し、吐谷渾を征討（西方の憂いをなくす）。</p>	<p>609 妹子が帰国、隋の対高句麗戦準備状況を報告。</p>
<p>611 百済が朝貢し援軍時期を尋ねる。百済に使節を送り謀議。新羅が朝貢し高句麗討伐を請う。（半島内で対高句麗体制を整える）この頃までに永濟渠完成（江都地域から対高句麗戦前線基地へ輜重輸送が可能に）。煬帝が高句麗討伐の詔を發布。</p>	<p>610 高句麗が技術者派遣。新羅・任那が朝貢、馬子が応対。（高句麗側、隋側双方からの、味方に引き入れる働き掛け）</p> <p>611 新羅・任那が朝貢。</p>
<p>612 高句麗領内に113万もの大軍で進攻。大敗。</p>	<p>612 「書紀」に群卿を召した酒宴や堅塩媛改葬の儀式の記事があるが、そこに馬子はいるものの太子の姿は見えず。</p>
<p>613 再び高句麗に進攻。隋政権内で反乱が勃発したため退却。</p>	<p>百済から、技術者（築庭）、楽人（伎楽舞）が帰化。</p> <p>613 「書紀」に片岡山での太子と飢人の交流話あり。</p>
<p>614 高句麗に三度目の進攻。隋国内で人民反乱が拡大。戦争は、高句麗が和議を申し出たため終了。</p>	<p>614 第4回遣隋使（犬上君御田歙ら）。（隋は、朝貢に対応できる状況になかったと思われる。）</p>
<p>616 国内各地で反乱軍が割拠。煬帝は江都に移る。</p>	<p>615 御田歙が百済使を伴い帰国、隋・高句麗戦争と隋の国内状況を報告。慧慈が高句麗に帰国。</p>
<p>618 煬帝が弑逆され、隋滅亡。群雄割拠の中、李淵が唐を建国。</p>	<p>616 新羅が遣使、仏像を奉る。</p>
	<p>618 高句麗が遣使、産物を貢納。隋軍撃退を伝える。</p>
	<p>620 太子と馬子が、「天皇記・国記」を記録。</p>

参考：堀敏一『東アジアのなかの古代日本』『中国と古代東アジア世界』、西嶋定生『古代東アジア世界と日本』